



藤野のこんな所、こんな人

高橋政行さん



藤野を象徴するものといってまず思い浮かぶものは、そうです、「緑のラブレター」です。中央自動車道からも、中央本線からも、国道20号線からも見える「緑のラブレター」、藤野のことを知らなくてもこれは知っているという方も少なくないのでないでしょうか。今や藤野のみならず、相模原市緑区のシンボルとしてあちこちで使われています。ちなみに藤野観光協会が作成したオリジナルのハッピにも「緑のラブレター」があしらわれています。藤野の象徴となっている場所、人を紹介するこのコーナーの第一弾は、やはり「緑のラブレター」です。

作者の高橋政行さんにお話をうかがいました。

<製作の経緯>

昭和63年、神奈川県の事業として、当時の藤野町に野外環境アート作品が設置されました。その時、私は「山の目」を作りました。その後、藤野町独自の動きが生まれます。県の補助事業に頼るだけではなく、町として町を象徴する看板のようなものを作ろうということでした。そして私に製作の依頼があり、私の企画が取り入れられることになったのです。

まず、現在の「緑のラブレター」の原型になるものを作りました。当時の町役場職員がそれこそ総出で、たった1日で作成しました。ただ、それは幕を垂らすといった簡易なものであつたため、2年目に本格的な「ラブレター」を作成することになりました。藤野町に興味をもってもらいたいという町の願いとアーティストの方向性が一致したということでしょうか。

<製作の意図>

基本的には「ようこそ藤野へ」というウェルカムの気持ちを表したものです。「山があなたにメッセージを送っています」という発信です。「あのラブレターにはどんなことが書かれているのですか」と尋ねられることがあります、それはそれぞれの人の想像に委ねるということだと思います。想像力こそが人間のあり方を豊かにするものだと思います。「あれ何なの?」という問い合わせが生まれれば、そこから始まるんだと思います。よく分からぬものだからこそ惹かれるものがあるんじゃないでしょうか。

もう一つ、深いところで意図したことがあります。アートのテーマの一つは環境と人間がどう関係していくかにあると思うのですが、自然が人間に伝えてくるものが必ずあるはずです。ただ、人間はそれをキャッチできていない。人間は環境に対してあまり耳を傾けていない、それが現状なんだ。そうした現状を伝えたかったという気持ちがあります。

<ラブレターを見てくださる方に伝えたいこと>

感動を、驚きを覚えてほしいということです。当時の藤野町でのような「緑のラブレター」が作られたことは「小さな奇跡」だと思っています。当時の藤野町の企画力、心意気があって実現したものです。行政の企画力を押し上げる町の勢いを感じました。相模原市になった今も、そうした想いを良しとし、「緑のラブレター」を生かしていってほしいと思います。

こんなツアー・イベントをやりました！

(1) 「韓国料理体験教室＆温泉の一日」

講師；佐々木直子さん、藤野倶楽部「直子の台所」にて。

美味しいメニューのラインナップは第1回：ピビン麺 第2回：キムチ。韓国料理を食べていると、体が温まり、ファイトがわいてきたり、前向きな気持ちになるそうです。そのせいか毎回わいわい楽しいお料理教室です。



(2) 講演会「相模川と吉野宿を語る」

講師；吉野宿本陣当主吉野甫さん 吉野宿本陣土蔵にて。

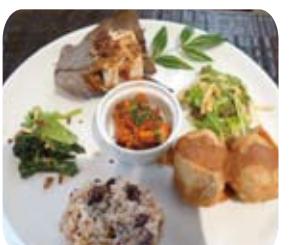
明治29年、吉野宿に起こった大火災に、唯一ビクともしなかった吉野宿本陣土蔵の中での講演会。92歳の吉野さんは数十年も前のお話をまるで昨日のことのように詳細にお話してくださいり、参加者の方もスタッフもただただ驚くばかりの二日間でした。



(3) 「ネイチャーガイドと歩く てくてくツアーア」

講師；池竹則夫さん 藤野園芸ランド遊歩道にて。

ガイドのお話は親しみやすい野草からマニアックな木々の話まで盛り沢山。またランチの「野山の食堂」では野草を使った料理が登場し、サプライズだったタマゴタケ料理には皆さん興味津々！とても楽しいランチになりました。



(4) 「相模湖～甲州街道歴史の旅」

講師；勝瀬観光代表 小野澤陸雄さん

吉野宿「ふじや」当主 大房良顕さん

小野澤さんからは、湖底に沈んだ勝瀬村の話から幕末の新撰組の話や戦後の相模湖の観光の歴史まで盛りだくさんのお話を聞くことが出来ました。また、大房さんからは当主ならではのエピソード交じりのお話を聞くことができ、自作の吉野宿音頭まで披露していただきました。



(5) 「藤野の秋を満喫！ 遊覧船から愛でる紅葉＆芸術めぐり」

水辺から紅葉を見るツアー。なんと！コースが山梨県境にある境川橋手前の淵までという前人未踏（？）のコースとあって、紅葉の迫力、水面の美しさにお客さんは大満足でした。また、静風舎の副島さんのお話と工房見学、芸術の道の散策を楽しみました。

